

5 School Management（学校・綾瀬市の取組みとして）

（１）学校全体で取り組むことの強みと、取り組むべき具体的な方策

子どもの学力向上に向けて、一人で努力をしても限界がある。また、一人の教員が小学校６年間、中学校３年間、ずっと指導に当たるのも人間性の形成的に考えてよくないだろう。

だからこそ、学校の全教員が力を合わせて、継続的で一貫した指導を、時間をかけて行うことによって、学力を向上させていきたい。小学校６年間、中学校３年間、合計９年間、継続的で一貫した指導ができ、右肩上がりに学力が伸びていった時に、子どもにかなりの自信がつき、充実した学校生活になることだろう。

だが、「数多くの業務を抱え、忙殺される中で、今以上に頑張ることを強いられても困る」という意見もあると思われる。

しかしながら、忙殺されているからこそ、学校全体で取り組むことが強みになる。一人では苦しいことであっても、協力して分担することで負担は軽減できる。そして、効果的な取り組みは決して真新しいものではないのである。大切なことは、地味で基本的なことを、**みなで徹底して行うこと**なのである。

前項の「４ Study Homework」でも記載されているが、学力向上に効果を上げている学校がどのような取り組みを行っているのかを示した表をもう一度引用する。

表６ 高い成果を上げている学校の特徴

1	家庭学習指導
・	宿題＋自主学習、自分の関心に沿った学習と弱点を自分で発見し補充する学習
・	小学校では特に丁寧な指導を行う
・	必ず教師が読み、手を入れ子どもに返す
2	管理職のリーダーシップと同僚性の構築、実践的な教員研修
・	教科を超えた研究授業、授業の見せ合いから同僚性へ
・	学校内外に授業を見に行く、県内外にかかわらず研修に出かける
3	小中連携教育
・	教育課程や学習習慣などの面で小中が連携し、系統性をもった指導を行う
・	特に中学校で成果
4	言語に関する授業規律や学習規律の徹底
・	書くこと話すこと聞くことを大切にする
・	ノート指導
5	学力調査の活用
・	学校の課題を明確にする際に活用
6	基礎・基本の定着の重視と、少人数指導、少人数学級の効果
・	発展的な学習よりも基礎・基本の定着のほうを重視
7	放課後や夏季休業中の補習
・	すべての教員が担う場合と、地域有償ボランティアが担う場合がある

さほど真新しいものはないと思う。学力向上に効果を上げている学校は、基礎的・基本的なことを一貫して継続的に指導できている学校なのである。これは一人ではできない。学校全体で、力を合わせて取り組みたい。

（２）家庭学習力の育成のための方策

人の脳は思い出す回数が増えるほど、記憶にも定着しやすく、理解も深まると言われている。そこで下記のように、復習を３回行う取組みを学校で行っていくのはどうかと考える。

例	授業の終末でまとめる。	（復習１回目）
	帰りのHRで、今日一日に学んだことを振り返る。	（復習２回目）
	宿題で、今日一日に学んだことを振り返る。	（復習３回目）

家庭学習力を育成するにあたって、可能な限り、すべての学年で、宿題の大枠の統一を図りたい。担任が変わっても、ずっと家庭学習の内容が統一されていれば、保護者の協力も得られやすくなると考える。さらに理想は、学校全体の統一だけでなく、市内全体での統一がすることである。綾瀬の子どもはどの学校に行っても、このような取組み（復習３回など）をしていると言えるよう、チーム学校・チーム綾瀬で行えれば子どもにとっても指導する教員にとってもよい効果をもたらすのではないかと考える。

ここでは、具体的にどのような家庭学習の課題の出し方をするかを提案する。この提案をたたき台にして、学校全体で出す家庭学習の課題を統一していく取組みを図ってほしい。

家庭学習の取組みの例

・家庭学習に取り組む目安の時間は、**１時間以上**
・**小学４年生から中学３年生まで継続する**

①家庭での振り返り（復習）

- ・学校で学んだことについて振り返る。
（感想をかく、練習問題をする、分からなかったことをまとめて調べる、さらに調べてみたいことについて調べるなど）

②基礎・基本の定着

- ・算数（数学）計算問題、漢字練習、英単語習得、短作文（日記）等。

③音読・読書

- ・積極的な働きかけをしていく。国語等の教科との関連も考慮。

④自主学習ノート

- ・最終的には、ここを最も充実させたいところである。
- ・何に取り組むのかを自らの意思で決定し、主体的に学習を進めていく。
- ・毎日取り組むことを目標に、少しずつ取り組めるようにしたい。

※これらは参考例です。各学校でビジョンを共有し、取り組めるところから確実に実施し、続けることが重要です。

家庭学習の取組みの例をもとに実践していくためには、やはり授業改善を図っていくことが求められてくる。「①家庭での振り返り」を実践するためには、授業内で何を学んだのかを明らかにするとともに、どのように振り返りを行いえばよいのかを、初めのうちは丁寧に説明していく必要がある。授業内で1回目の復習、帰りの会（HR）で2回目の復習、家庭で3回目の復習が確実にできるよう、振り返りシート等を作成するなど工夫して取り組んでもらいたい。

また、授業の取組み方について、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が新学習指導要領で求められており、このような能動的な活動を積極的に取り入れることによって家庭においても自ら取り組む力（家庭学習力）につながっていくと考えられる。

さらに、授業内で十分理解できなかった子どもや、欠席等で進度が遅れてしまったような子ども等への支援として、授業外の取組みについても今後考えていく必要がある。一例として考えられるのが放課後の学習会の設置である。放課後には、会議や部活動などがあり実施に向けては様々なハードルがあると思うが、学級・学年単位といった小規模ではすでに実践している教員もいる。各学校、あるいは市単位で取組めるような体制が整えられることを期待する。

そして、これらの取組みが小学校と中学校で連携して行っていく必要がある。小学校教員、中学校教員が互い授業を見合ったり、どのように家庭学習を実践しているのかなどを共有したりするなどして、互いに研究を進めることで、子どもが主体的に家庭学習をしたくなるような仕掛けのある授業などの研究がより進んでいくと考える。

（３）多忙な教員を支え、学力を向上させるためのシステム作り

学力を向上させるためには、「確かな学習習慣」が必要であり、「家庭学習力」を身につけなければならないことが分かった。しかし、家庭学習を子どもたちにさせるだけでは意味がなく、長続きもしないであろう。やはり、子どもたちが頑張ったことにきちんと評価してあげたい。つまり、子どもたちがやってきた家庭学習に対して丸つけをしたり、コメントを書き入れたりすることが重要であると考えます。この丁寧な取組みが子どもたちの自己肯定感を引き上げると考える。

このような取組みをするには、教員一人ひとりの改善も必要となるがそればかりでは継続できない。継続できるシステムを今後考えていく必要がある。先行的に行っている例もあるので参考にして頂きたい。

先行的に実施している地域の例

- 地域・学生ボランティアの人材確保
家庭学習・授業等の基礎・基本の習得における採点等の補助など。
- 放課後勉強会の充実のための方略
部活担当と放課後学習会担当に分けるなど。
- ICTの活用
児童・生徒一人ひとりの進度に合わせて学習できるソフトやアプリ、タブレット等の導入。
- 小中一貫教育
「月に1度、小・中学校間で授業を見合う」「小・中学校間で授業等について意見を交換する」といった取組みを行えるようにする。
- スーパーウェンズデー
週に1度、教材研究を行う時間を確保する。放課後に生徒もいなく会議もない状況を作る。毎週水曜日の午後に設定して、その授業数だけ夏休みを早く開始する。など

(4) 成功例・失敗例から見てくる成功への秘訣

上記のような施策を取り入れた時に、学力向上に結びついたケースもあれば、同じように取り入れたにもかかわらず失敗に終わってしまった例もある。その違いについての考察で、大阪大学大学院人間科学研究科教授である志水宏吉教授はこのように述べている。

見える学力だけでなく、見えない学力も大切。そのために、まずは“学習習慣”。

見える学力（点数）が向上することも大切な目標だが、見えない学力を向上させることがより重要である。見えない学力とは学ぶ意欲。それを高めるために最も重要なのは“学習習慣”。ノートの取り方や授業に取り組む姿勢をきちんと指導して、できたら褒め、励ます。これを繰り返し行って、自尊感情を高めさせながら、「嬉しい、また頑張ろう。」と感じさせることが、自ら学ぶ意欲につながっていく。

学習習慣を高めるための施策を行う際に、上手くいかない理由についても、言及している。学力向上で成果を上げている全国の小・中学校を訪問調査した上での考察である。

成功へのポイント① 全員のベクトルをそろえる。

学校の教員の思いが同じ方向を向いていないと、前には進みません。確かなリーダーシップのもとに明確にビジョンを共有し、全員が協力して前に進む時、大きな前進につながります。

成功へのポイント② あれこれ手を出さず、一点突破を狙う。

いろいろな取り組みをすると、教員も子どもも疲弊してしまい、ストップしてしまう。結果、中途半端に終わってしまう。何か一点突破で成果を出して、その波及効果を狙っていくのがよい。一点突破できるまで継続的に取り組む際に重要なのが「楽しい」と思えるかどうか。教師や親、友だちから褒めてもらったり、認めてもらったり、手応えを感じたりした時に「楽しい」と感じ、心が動く。

成功へのポイント③ 納得できるビジョンを示し、粘り強くぶれずに続ける。

目標があると、みんなで協力する原動力になる。各校の課題に合わせた1年後・2年後などの姿をイメージした長期目標と、月ごとや学期ごとの短期目標を無理なく設定し、焦ることはなく、粘り強くぶれずに続けることが大切である。小さな成果であっても、発信し、共有し、モチベーションを保つことが大切である。

この教育調査報告書の内容について、学校全体あるいは綾瀬市全体で真剣に考え、ビジョンを共有し、ベクトルをそろえて進めていただければと考える。